

I 研究主題

「英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成」
～小中一貫した評価の在り方の工夫を通して～

II 主題設定の理由

21世紀を迎え、世界の経済・社会は国際化・グローバル化が急速に進展している。それに伴い、異なる文化を持つ人々との共存や国際協力の必要性が増大し、日本でも国際的共通語である英語の必要性が高まってきた。

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、「外国語活動」が小学校高学年で必修となり、外国語活動の目標や内容が示された。その目標には、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」とある。このことから、外国語を使ってコミュニケーションを図るという体験を通じて、人とかかわることの楽しさや大切さ、難しさに気づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていくことが重要視されてきている。

また、平成22年3月10日に出された中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「児童生徒の学習評価の在り方について」によると、「小学校での『外国語活動』の評価については、観点を設定し、それに即して、文章の記述による評価を行うことが適当である。」と示されている。さらに「小学校・高等学校及び特別支援学校における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」では、「小学校の外国語活動の評価の観点を設定する場合には、中学校の外国語科の学習評価との関連を考慮する必要がある」と示されている。

これまで、宮崎市の英語活動・英語教育研究班では、新学習指導要領の実施に向け、小中学校の円滑な実施を考慮した年間指導計画の見直しや豊かにコミュニケーションができる児童生徒の育成を目指した指導の在り方などについて研究し、実践を行ってきた。その結果、「児童生徒がより英語に慣れ親しみ、よりよい人間関係を築くようになり、小中学校の接続が円滑に行えるようになったりした」などの成果をあげている。しかし、評価においては、評価規準は作成したものの、評価基準があいまいになっていることが、教師にとって指導を行う上で不安を感じる要因の一つとなっていた。また、小学校での英語活動及び外国語活動における児童の学習状況について中学校では十分に把握できておらず、中学校での指導に生かされていないという課題もある。

そこで、昨年度作成した評価規準をもとに、中学校の外国語科の評価基準に関連させながら、小学校における外国語活動の評価基準を作成した。期待できる効果として、小中学校いずれの教師も情報を共有し、教師の指導と子どもの学びをつなぐことが可能になり、ひいては授業の改善を図ることができるようになるのではないかと考えた。また、その評価を活用してフィードバックすることで児童生徒は積極的にコミュニケーションを図ろうとしたり、言葉の面白さや表現することの楽しさに気付いたりすることにもつながると考えた。

以上のような理由から、英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成について究明していきたい。

III 研究目標

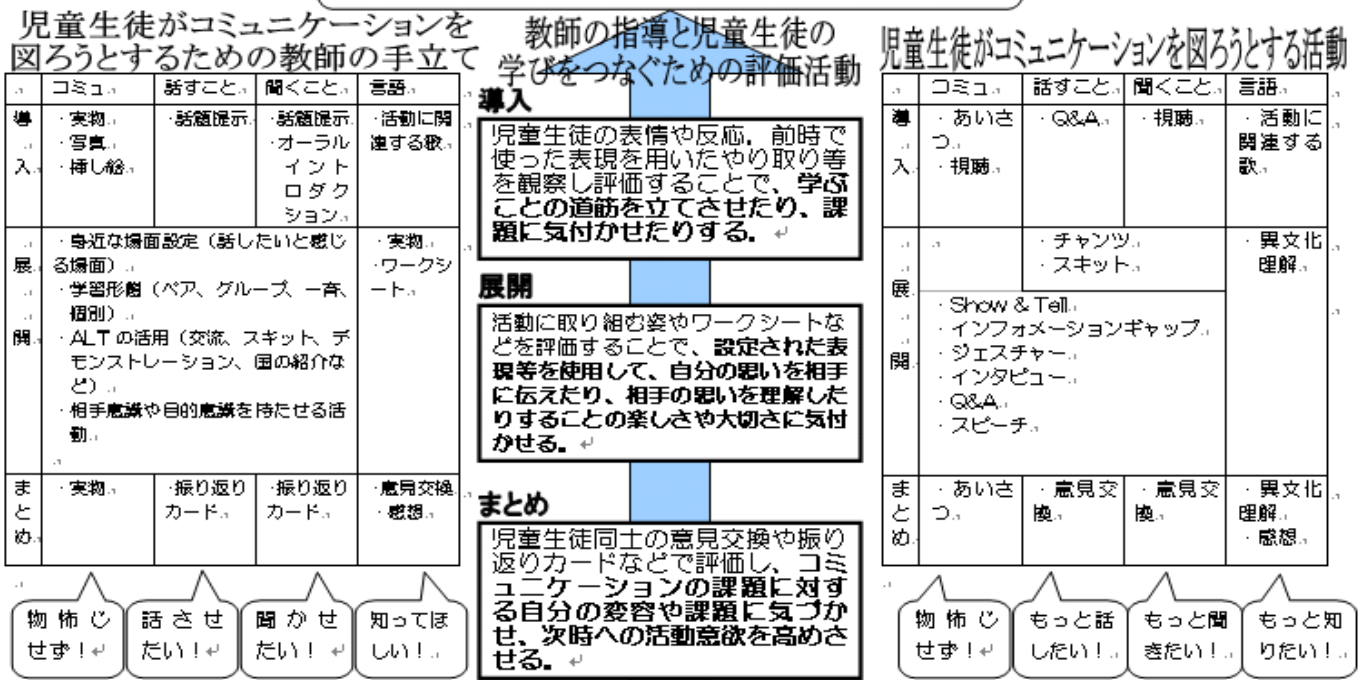
英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成の在り方を究明する。

IV 研究仮説

中学校の外国語科の評価基準に関連させた小学校の英語活動での評価基準を作成し、指導と評価の一体化を図れば、英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションを図ろうとする児童生徒を育成することができるであろう。

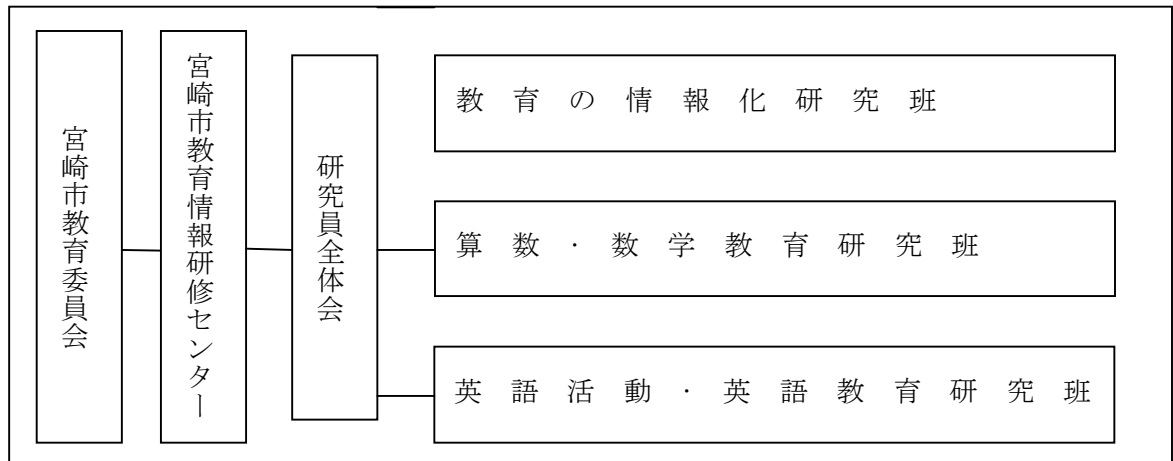
V 研究構想

英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションを図ろうとする児童生徒



児童生徒の「コミュニケーション能力」に関する実態

VI 研究組織



VII 研究内容

1 宮崎市の実態調査の実施及び分析

昨年度の英語活動・英語教育研究班による研究の課題をもとにした、小学校5・6年生の外国語活動における、年間を通した評価基準を本研究で提案していくために、小学校の教師（5・6年生担任）と中学校の英語教師を対象として平成22年7月に評価に関する実態調査を行った。以下は実態調査の結果をまとめたものである。（対象：全小中学校）

(1) 評価について

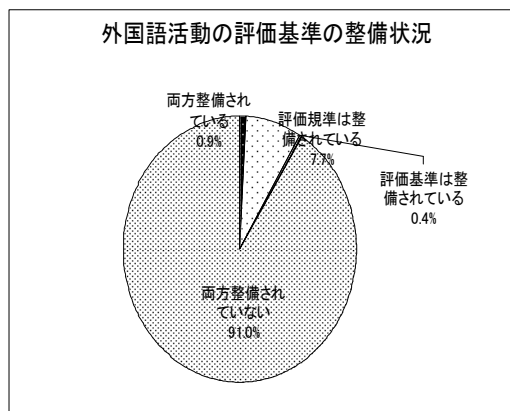
ア 外国語活動の評価基準の整備状況

① 結果

評価基準が整備されている学校は0.4%、両方整備されていない学校は91.0%であり、評価基準が整備されていない学校は全部で98.7%あるということがわかった。

② 考察

このことから、小学校の教師が、学校で共通した基準をもとに評価ができていないため、指導を行う上で不安を感じていると考えられる。



〔図1 外国語活動の評価基準の整備状況〕

イ 関心・意欲・態度についての評価の頻度

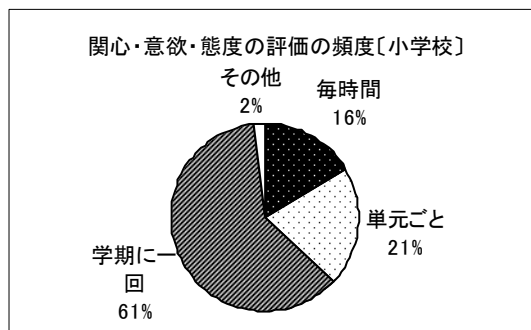
① 結果

小中学校共通して、「毎時間」「单元ごと」「学期に1回」とほぼ3パターンの頻度で評価が行われている。小学校においては、教師によって頻度が異なり独自の方法で外国語活動を行っていることが分かった。中学校では小学校と違い、約4割の教師が毎時間評価を行っていることが分かった。

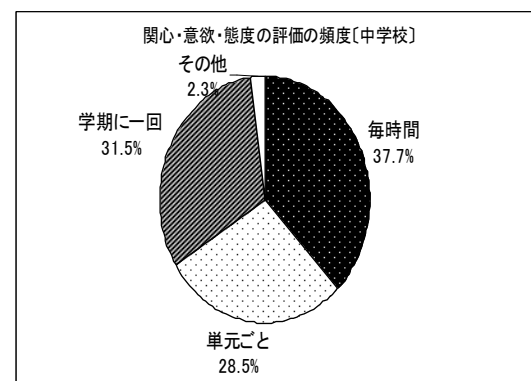
その他の意見としては定期テスト、セッションごと、学期に数回という回答が見られた。

② 考察

中学校では小学校と違い教科担任制であり、評価基準も整備されているため、定期的に評価を行い3年間の変容を見ることができると考えられる。



〔 図2 評価の頻度（小学校） 〕



〔 図3 評価の頻度（中学校） 〕

ウ 評価の方法

① 結果

評価の方法としては、生徒の相互評価・自己評価、教師の観察、ワークシートや英語ノートが主に活用されている。

小中学校共通して「観察」が最も多く、その後に「ワークシートの活用」「自己評価・相互評価」と続いていることがわかった。大きな違いとして、中学校に比べ、小学校は「評価規準」や「評価基準」を用いた評価が極端に少ないことが挙げられる。その他の意見として、中学校では「小テスト」「定期テスト」「ワークや宿題などの提出物」という回答が見られ、テストで関心・意欲・態度を評価するということがわかった。

② 考察

このことから、小学校では評価基準が整備されていないため、教師がそれを利用できずに教師個人がもつそれぞれの基準でしか評価を行うことができないと考えられる。

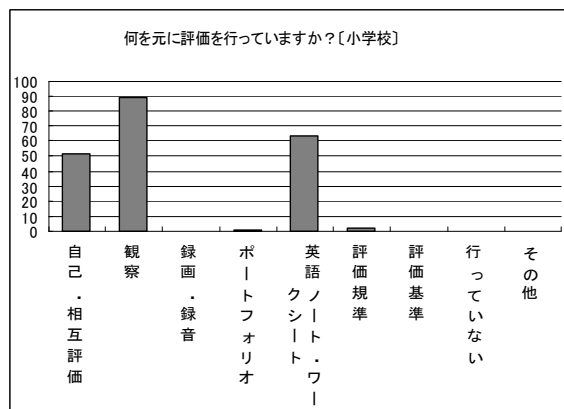
エ 評価をどのように生かしているか

① 結果

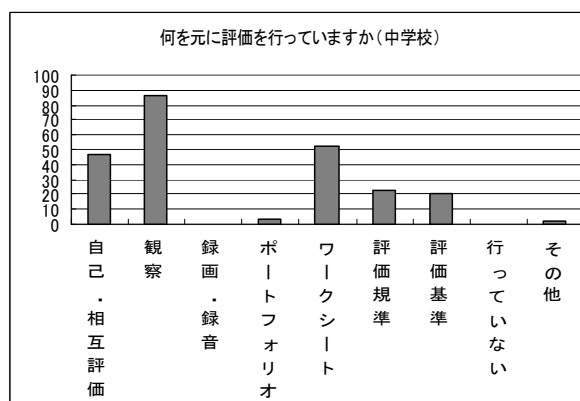
評価の活用方法としては、教師が児童生徒の実態に応じた指導方法の工夫改善に生かしたり、通信等で児童生徒の頑張りや課題を保護者や児童生徒に紹介したりしているという回答が大半であった。

小中学校共通して「授業の改善」という回答が多く見られ、その後は「児童・生徒へのアドバイス」や「教育相談」と続いた。

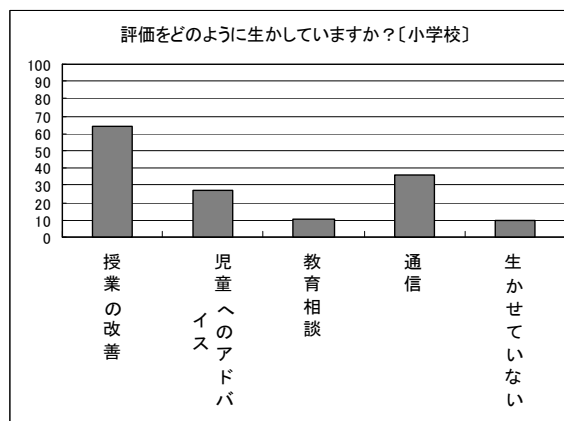
「評価を生かしていない」理由としては次のようなことがあげられた。



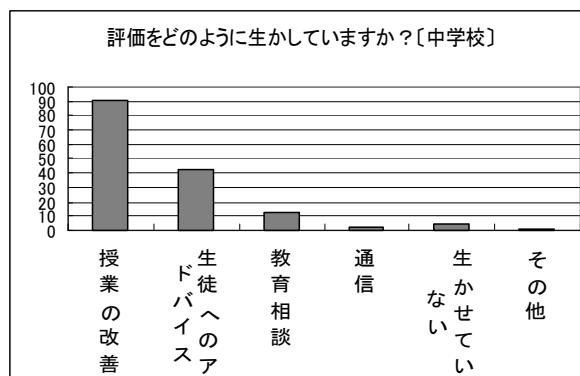
[図4 評価の方法 (小学校)]



[図5 評価の方法 (中学校)]



[図6 評価の生かし方 (小学校)]



[図7 評価の生かし方 (中学校)]

【小学校】	【中学校】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価をする時間がとれない。 ・ 評価方法や評価規準があいまいである。 ・ 児童のどのような姿を評価してよいのかわからない（児童の変容がつかみにくい）。 ・ 通知表に何を書けばよいのかわからない。 ・ 指導と評価の一体化が図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィードバックの機会が少ない。 ・ 教材研究が不十分なために、評価を生かした授業ができていない。 ・ 客観的に観察しようとしているが主観的になってしまう。

② 考察

小学校は評価基準がないために、児童の変容がわかりづらく、評価を生かしてきていないと感じている教師が多いと考えられる。中学校では、評価基準があるため能力面については評価することができているが、関心・意欲・態度についての評価に関しては生かしてきていないと感じている教師が多いと考えられる。

オ 評価についての悩みや問題

評価に関する悩みや問題は以下のものであった。

【小学校】	【中学校】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 明確な評価基準が設定されていないため、どのように評価していいのかわからない。 ・ 評価のタイミングがわからない。 ・ 中学校の英語教育につなげるための評価の在り方が、どうあればよいかかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的、継続的な評価方法がわからない。 ・ 有効な評価の仕方、生かし方がわからない。 ・ 関心・意欲・態度の評価例を示してほしい。 ・ テスト以外で効果的な評価の方法がわからない。

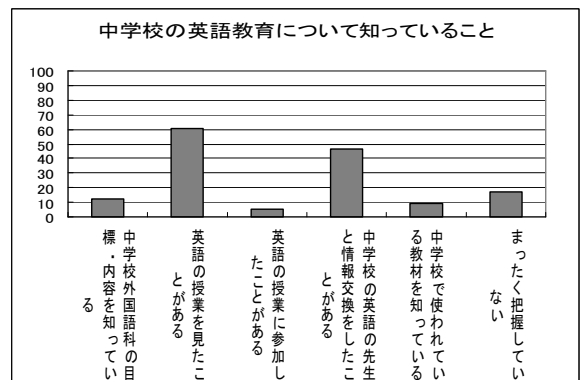
(2) 小中一貫した指導の実態

① 結果

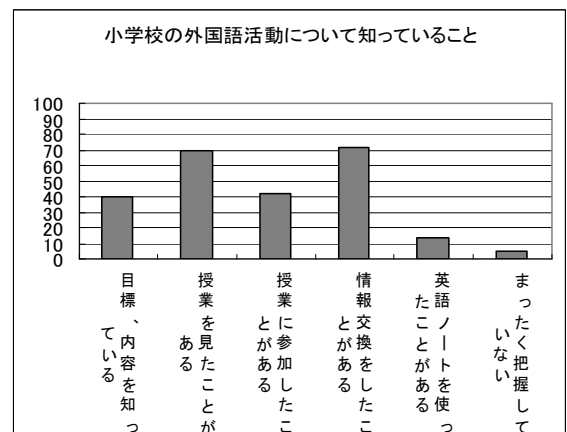
小中学校の教師が互いにともに「情報交換をしたことがある」「授業を見たことがある」という回答が多かったが、互いの学習指導要領の目標や内容を把握できておらず、詳細については理解できていないということがわかった。また、「まったく把握していない」という回答も見られた。

② 考察

このことから、中学校の教師は小学校での学習内容や外国語活動についての評価が分からず児童の実態に適した指導ができなかつたりするという面で、小学校の外国語活動が中学校の英語教育での指導内容に生かしてきていないのではないかと考えた。



[図8 中学校の英語教育について知っていること]



[図9 小学校の外国語活動について知っていること]

以上のことから、小中一貫した指導を行うために昨年度作成の評価規準を基に、評価基準や振り返りカードを作成することにした。小学校の教師が共通した評価基準をもつことで、個に応じた指導に対応した指導の充実を図ることや、その評価を基に児童にフィードバックすることができる考えた。さらに小学校の評価を中学校につなぐことで、小学校での学習内容を生かした授業や生徒の実態に応じた指導を行うことができる。また、教師からの助言によって、児童生徒は自分の成長に気付き自信をもったり、課題を認識し次からの外国語活動及び英語教育において学習意欲を高めることができる考えた。

2 授業の実際

(1) 小学校5年生の授業

ア 小中一貫した評価の在り方の工夫

○ 評価基準の作成

昨年度の研究で、小中学校の接続を考慮して、子どもにつけたい力を、具体的な子どもの成長の姿として文章表記した「評価規準」を作成した。本年度は、それらを用い、つけたい力をどの程度まで習得しているか把握することができるようにするため、また、教師が指導のねらいを確実に達成し、指導と評価の一体化を図るために「評価基準」を作成した。その際、中学校の評価基準等を参考にしながら、スキル面ではなく、「関心・意欲・態度」に着目して作成した。

「～できる」という能力面の表記ではなく、「～している」等の関心・意欲・態度面を評価できるような表現を用いた。

		活動内容				
		1時	第2時	第3時	第4時	
		日本語の通して、成り立ちに気付	クイズを楽しみ、クイズ大会に興味を持つ。	“What’s this?”を使って尋ねる。	友だちと互いに尋ねたり答えたりして、クイズを楽しむ。	Pro. 2-③ / Let’s 使う音楽などについてP57/順番を表す語Prする
						What’s this? It’s lettuce, cabbage, onion. Do you speak Japanese? What do you study? I study science. How many brothers do you have? I have two brothers.
11	ねらい 評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 オリジナルのクイズを出し合い、コミュニケーションをしながら答えを見つける楽しさを味わう。	話すこと クイズやその答えをはっきりと言	聞くこと クイズの答えが分からないときは、質問しながら聞く	言語や文化への気付き 英語にも日本語の二文字熟語と似たような言葉があることを知り、興味をもつ。	中学校の評価基準の4観点をもとに、観点を定めた。
	A 十分満足できる	ジェスチャーや英語を用い、友達とコミュニケーションを図っている。	ジェスチャーや英語を用い、相手に伝わるように答えている。	クイズの内容を正確に聞き取る。	英語にも日本語の二文字熟語と同じような言葉があることに気付き、もっと深く知ろうとする。	
	B おおむね満足できる	英語や日本語を用いて、友達とコミュニケーションを図ろうとしている。	英語や日本語を用いて、相手に伝わるように答えている。	クイズの内容をおおまかに聞き取る。	英語にも日本語の二文字熟語と同じような言葉があることに気付く。	
	C 努力を要する	英語を用いて、友達とコミュニケーションを図ろうとしていない。	英語を用いて、答えようとしていない。	クイズの内容を聞き取ろうとしていない。	英語にも日本語の二文字熟語と同じような言葉があることに気付いていない。	

○ 振り返りカードの作成

単元の評価規準を基に振り返りカードを作成することで、児童のねらいへの達成度や実態を把握できるようにした。その際、中学校との関連を図り、4つの観点に設定した。このシートをもとに、単元ごとの評価ができ、児童の変容を把握することで、授業の改善に生かすことができる。また、児童にとっては、自分自身の成長や課題をみつけたり、友達の良さや文化の違いなどその時間に気付いたことを振り返ったりすることで、次時の学習への意欲を高めることができる。

クイズ大会をしよう（ふいかえりカード）



NAME ()

◎大変良い ○良い △もう少し

①	コミュニケーション	友達とクイズ大会を楽しめましたか。	
②	話す	ジェスチャーや英語（what's this?）を使って、クイズを出せましたか。	
③	聞く	友達のクイズをしっかりと聞くことができましたか。	
④	知る	英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知りましたか。	
☆感想（学んだこと、友達の良かった所、気づいたこと など）			

イ 評価を生かした授業実践

活動の中で見られた児童の良さを認め広めていくと同時に、本時のねらいを達成できているか確認したり、個人の変容を捉えたりできるように、評価基準に沿って児童の様子を記録した。そして、その評価を基に賞賛や助言等のフィードバックを行うことで、児童に自分自身の学びを気付かせたり、次時につながる課題をもたせたりした。

一単位時間の中で、導入では、「英語をどのように聞いているか」や「英語の音声に慣れ親しんでいるか」等の児童の様子を観察した。

展開では、観察を通して「ジェスチャーを交えて工夫して伝えようとする姿」や「これまでに親しんだ表現を使って伝えようとする姿」など、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を中心に評価を行った。

終末では、児童同士で、友達の頑張りを口頭で紹介したり、振り返りカードで「自分自身の変容や課題」を確認させるようにした。



【観察による評価を行う教師】

展開	4 クイズ大会をする。 ・前半、後半に分かれて活動を行う。 ・後半に出題するグループは解答者になる。	○ ジェスチャークイズ ○ スリーヒントクイズ ○ ピクチャークイズ ○ ブラックボックスクイズ ○ マジックボックスクイズ ○ シルエットクイズ	○ 児童が活動している間は、各グループを回りながら進んで答えている児童を賞賛する。 ○ 答えが分からない時は、出題者が色や形などのヒントを英語で言うように助言する。 ○ 相手に伝わるように、ゆっくりわかりやすく、ジェスチャーを用いながら、クイズを出させる。 ○ 相手が言っていることに、しっかりと耳を傾けて、わからないことは、できるだけ英語で質問させる。	◎ クイズを発表したりクイズに答えたりして、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとしている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ＜行動観察＞ A: ジェスチャーや英語を用い、友達とコミュニケーションを図っている。 B: 英語や日本語を用いて、友達とコミュニケーションを図ろうとしている。 C: 英語を用いて、友達とコミュニケーションを図ろうとしていない。	カード

[学習指導過程の中での評価基準]

◎大変良い ○良い △もう少し

①	友達とクイズ大会を楽しめましたか。	◎
②	ジェスチャーや英語（what's this?）を使って、クイズを出せましたか。	○
③	友達のクイズをしっかりと聞くことができましたか。	◎
④	英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知りましたか。	◎
☆感想（学んだこと、友達の良かった所、気づいたこと など）		
今日の英語は、いろいろ勉強になりました。こういう英語は、ふたん言わないので、この授業で覚えておいたら、良いなと思いました。友達もクイズにちゃんと参加して、		

もりあがり、楽しかったりと、良かったと思います

[児童の振り返りカード]

ウ 成果

評価基準をもとに、児童の活動の様子を評価することで、一人一人の実態を把握することができた。その評価をもとに児童へ「その表現いいね」などの称賛や、「英語がわからないときはジェスチャーも使うといいね」などの助言を通してフィードバックすることで、児童が自分自身の学びに気付くことができた。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたり、楽しく伝え合ったりする姿が見られた。

また、教師が児童の関心・意欲・態度や理解の程度を知ることによって、授業改善につなげることができた。

(2) 中学校2年生の授業

ア 評価を生かした授業実践

今回の授業では、「動名詞」の用法について学び、「休日の過ごし方について言えるようになろう」という学習課題をもとに第2学年の基礎コースで授業を行った。特に今回の授業では、小学校の外国語活動と中学校の英語教育において評価の観点で共通している「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」に重点を置いた。評価については、指導案の指導計画・評価計画に示し、学習指導過程にも評価基準とともに示した。

時間数	目標	評価					
		コ	表	理	知	評価規準	評価方法
2 本時 (1/2)	休日したことについて言えることができる。	○	○			① 動名詞の表現を正しく理解できる。 ② 動名詞を用いて休日の過ごし方について表現できる。	観察 ワークシート

【指導計画及び評価計画】

展 開	4 課題を解決する。 ① 本時で学ぶ表現を何度も繰り返して読む。 ・ enjoy ~ing の練習を行う。 ② 友達に休日何をしたかについてインタビューする。 A: Hello. Mr /Ms ~. B: Hello. Mr /Ms ~. A: What did you do during autumn vacation? B: I (). A: Why did you ()? B: Because I like to (). A: Did you enjoy ()? B: Yes. I enjoyed ()ing. A: Thank you. See you. B: You're welcome. See you. ③ 友達の休日したことについてまとめる。 ④ 全員に発表させる。	○ 生徒にとって身近に感じさせるために生徒の体験をもとに例文を作る。 ○ 表現に慣れさせるために大きな声で発音させる。 ○ 机間指導を行い、発音や、英語での表現について支援する。 ○ できるだけ日本語を使わないでコミュニケーションを行わせる。	○ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (観察) A: 積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 B: コミュニケーションを図ろうとする。 C: コミュニケーションを図ろうとしない。	(一斉) 写真
	○ 机間指導を行い、英語での表現について、個別に支援する。 ○ 友達の作った英文を聞くことでいろいろな考え方にふれ、もっと自分のことを言いたい。 ○ 手本となる英文を紹介する。 ○ 本時の学習課題への取り組みのよかった点を賞賛する。	○ 表現の能力 (ワークシート) A: 動名詞の用法を正しく理解し、表現できる。 B: 動名詞の用法を概ね理解し、表現できる。 C: 動名詞の用法を理解できていない。		

【学習指導過程の中での評価基準】

前時までの学習で、生徒のワークシートや教師の机間指導、観察により評価を行った結果、「コミュニケーションに対する関心・意欲」、「自分自身のことについて表現する力」が低いという生徒の実態を知ることができた。

そこで、本時の導入では、生徒の興味・関心を引き出すために、教師自身の秋休みについて、写真を提示しながら説明を行った (Show and tell)。ここでは、生徒が教師の話を興味・関心をもって聞いているかを観察により評価した。

展開では、「友達の休日の過ごし方について聞いてみよう」というコミュニケーション活動の中で、評価基準に沿って生徒の様子を記録した。また、表現の能力については、動名詞の用法を用いて英文を作らせ、ワークシートによって評価を行った。

そして、終末では、振り返りカードを用いて、本時の振り返りを行わせることで、生徒自身の変容や課題について確認させるようにした。



【導入時の「show and tell」】



【展開時のコミュニケーション活動の様子】

Self evaluation check			
1 積極的に友達にインタビューし、「休日の過ごし方」について自分のことを相手に伝えようとした。	◎	○	△
2 積極的に友達にインタビューし、「休日の過ごし方」について相手の言うことを理解しようとした。	◎	○	△
3 「休日の過ごし方」について"enjoy ~ing" を使って表現できた。	◎	○	△
◎: 大変よい ○: よい △: もう少し			
感想 (コミュニケーション活動、発表をした時に感じたことなど)			
秋休みについての先生の写真がおもしろかった。友達のインタビューが難しくうまくできなかったが友達が休日何をしているのかが分かって楽しかった。			

【まとめの段階の振り返りカード】

自分の課題に気付くことができた。

ウ 成果

評価基準をもとに、生徒の学習や活動の様子を評価し、授業中、授業後に生徒へフィードバックすることで、生徒が新しい表現や自分の活動の様子など、自分自身の学びに気付くことができた。積極的にコミュニケーションを図ろうとしたり、学習した表現を使って楽しく伝え合ったりする姿が見られた。

また、生徒のワークシートや机間指導を通して学習内容の理解の程度を知ることができた。また観察を通して、生徒の表情や声の大きさ等の活動の様子から生徒の「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」を知ることができた。それをもとに、生徒が主体的に話せるコミュニケーション活動を行うために、使用場面を意識した言語活動になるように工夫した。また、表現力を身につけさせるために自己表現の場の設定などの授業改善につなげていくことができた。

VIII 成果と課題

本研究班ではアンケートを受けて評価基準を作成し、小学校、中学校で検証授業を行った結果以下のような成果と課題が分かった。

1 成果

- 評価活動を通して、児童生徒が自分自身の学びに気付いたり、課題をもったりすることができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。
- 評価規準をもとに評価基準を作成したことで、指導のねらいを明確にすることができ、授業改善を図ることができるようになった。
- 作成した評価基準や振り返りカードを宮崎市教育情報研修センターのホームページ上に更新することで、小中学校いずれの教師も情報を共有し、活用することができるようにしたい。

2 課題

- 子ども一人一人の学習状況を中学校での指導に生かせるよう、小学校での評価を中学校につなげることが大切であり、継続して評価活動を実践し検証していく必要がある。
- 今後、小学校での学習活動を中学校での授業に生かすことで、小学校で学んだことを中学校で確かなものにしていく必要がある。

<引用・参考文献>

- 「小学校学習指導要領」
- 「中学校学習指導要領」
- 「小学校学習指導要領解説・外国語活動編」
- 「中学校学習指導要領解説・外国語編」
- 「宮崎市小学校英語活動年間指導計画」

<研究同人>

所長 齋藤 良和

指導主事 杉山 茂

研究員 安井 智厚 (大淀小学校)

森 匡平 (江平小学校)

外薗 麻里 (東大宮小学校)

土持 薫 (久峰中学校)

小野 雅樹 (生目台中学校)

齊藤 奈々 (広瀬中学校)